

FOMC以降の市場の変調について

ポイント① 米利上げ時期が前倒しに

6月15、16日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）では、従来は2024年に予想されていた米国の利上げ時期が2023年中に前倒しされるとの見通しが発表されました。また、18日には、FRB（米連邦準備制度理事会）のタカ派高官から、2022年中にも利上げが行なわれる可能性があるとの見解が公表されました。

ポイント② マーケットは荒れ模様

米国の利上げ前倒し観測などを受け、FOMC以降の世界のマーケットは荒れ模様となりました（図1参照）。米債券市場では、利上げの影響を受けやすい2年債は利回りが急上昇した一方、年初来で上昇してきた10年債利回りは乱高下した末に横ばいでした。商品や株式市場は、年初来でインフレや景気回復への期待で大きく上昇してきた銅市況、金融やエネルギーなどの景気敏感セクターが相対的に大きく下落した一方、上昇が鈍かった情報技術セクターは小幅上昇しました。また、市場別に見ても景気敏感株の代表格である日経平均株価の下落が目立つ一方、ナスダックは小幅上昇しました。

ポイント③ 景気回復は続く

このようなマーケットの短期的な変動は、インフレや景気回復を期待していた短期筋のポジション解消によるものと考えています。早期利上げによってインフレは抑制され、景気加速もやや鈍化するかもしれませんが、こうした見通しの変化が短期的なマーケットの変動を増幅させたものと見ています。但し、企業収益や業況感の回復は今後も続くと考えており、今回のマーケットの変調は一時的な調整であり、調整を経た後には再び盛り返していくと考えています。

図1：6月のFOMC前後の主要市場の変動

	'20/12/31-'21/6/15	'21/6/15-6/21
米10年債	0.579	-0.004
米2年債	0.042	0.091

※利回りの変動幅（%）、日付は年/月/日

銅先物	23.1	-3.4
S&P金融	25.9	-3.2
S&PIエネルギー	46.9	-2.8
日経平均	7.3	-4.9
NYダウ	12.1	-1.2
ナスダック総合	9.2	0.5
S&P情報技術	9.1	0.8

※騰落率（%）

期間（左）：2020年12月31日～2021年6月15日

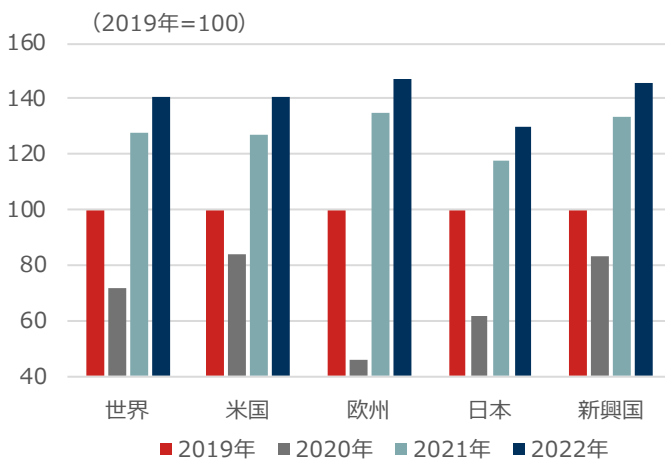
期間（右）：2021年6月15日～2021年6月21日

※S&P金融、S&PIエネルギー、S&P情報技術は、それぞれS&P500のセクター別株価指数

（出所）Bloombergを基に野村アセットマネジメント作成

図2：主要国・地域の企業収益の推移

期間：2019年～2022年、年次



世界、米国、欧州、新興国はMSCIの各指数のEPSを、日本はTOPIX（東証株価指数）のEPSを基にしています。

※2021、2022年はBloombergコンセンサス予想
（出所）Bloombergを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。